

# 春日小学校 学校運営協議会だより

令和5年3月23日  
発行 春日小学校  
学校運営協議会事務局

## 【学校運営協議会とは…】

教育委員会や校長の責任の下、地域と学校をつないで、地域全体で子どもを育てるために、学校の教育活動を支援し、評価し、提言や助言等を行っていく組織です。学校運営協議会が設置されている学校を「コミュニティースクール（略称：CS）」と言います。春日小学校の学校運営協議会は、2012年に設置されました。

春日小学校学校運営協議会の実践は、これまで上越市のコミュニティースクールの一つのモデルとなってきました。また、コミュニティースクール全国大会での春日小学校の実践報告（星野校長発表）を受けて、「NPO法人 みらいず works」から、書籍「協働デザイン入門～地域と学校でともに学びをつくる～」で春日小の取組が紹介されたり、CSの設置を進めようとしている長崎県からの視察があったり、全国のモデルにもなっています。

## 【今年度後半を振り返って】

### 地域への学校ボランティア募集で学校へのサポート体制の充実を図りました。

1学期中に地域へのボランティアの募集案内を作成、回覧し、登録を進めた結果、6年生への金管指導や花や花壇の手入れ、校内の清掃、消毒等の作業に登録してくださった方々がおられ、夏休み中から活動を始めてくださいました。また、募集とは別に、自主的に学校の活動への協力を申し出てくださった方もおられ、委員一同ありがたく思っています。

夏休み前後からの学校への支援や協働の一端を写真で紹介します。

持久走大会の安全を見守りました。



金管の練習にも地域の方から協力をいただきました。



ヤギの遊び場作りの材料を整えました。



地域のボランティアの方々へ協力を呼びかけ、春日山の案内を依頼しました。



謙信公祭についての講話やちょうちん作りをサポートしました。



## 長崎県教育庁の春日小 CS 視察の意見交換の一部を紹介します。

【日時】 令和5年2月6日（月）

【会場】 春日小学校視聴覚室 星野校長先生と CS 委員で対応しました。

【校長先生から】

設置に当たっては、初代の会長が、「校長から『運営協議会委員及びコーディネーターにはカリキュラム検討会に出席してほしい。そして自由に意見を言ってほしい』と提案されました。この瞬間、開かずの扉が開かれたと同時に重大な義務・責任が課せられたと思いました。口に出すということは、問題点を正確に把握し十分に考察しなければいけないからです。勉強しろということでもあります。」と述べていることを引用しながら、春日小学校の現況や CS の概要について説明がなされました。

【意見交換の概要】

CS が設置されたことで何がどう変わったか、ということを中心に意見交換がなされました。以下は、その一部です。

CS によって、学校への地域の願いや思いが具体的に伝えられ、実現できることも生まれます。

仲間が仲間を呼び、支援の人材が広がります。つながります。地域の子どもは地域で育てるという思いの共有の一歩となりました。

子どもたちに喜んでもらえればやりがいを感じます。先生方が人手や人材を探す負担軽減にもなります。

地域が学校をお手伝いするという意味ではやれることがあります。自分（地域の人々）の出番が見えてきました。



地域資源について子どもたちに伝える機会があり、地域のよさや誇りを実感できるようにしています。地域と学校が winwin の関係でつながります。

PTA としての役割においても「地域の子どもは地域で育てる」という理念を共有する機会になります。

地域青少年育成会議が地域で子どもを育てる基盤となっています。子どもたちを育てる団体同士の連携や協働が大切です。

子どもたち自身が、様々な企画をして、運営、実行していくことへの支援が地域においても必要です。

視察をされた長崎県教育庁の方々には、やりがいをもって、楽しそうに、熱く思いを語る委員の方々の言葉に感銘を受け、長崎県での CS 推進に一層の意欲と具体的なイメージをもってお帰りになりました。

私たち春日小学校 CS 委員にとっても、改めて春日小学校の CS の歩みや設立当初からの思い、理念を再認識できた機会となりました。

新型コロナウイルスに翻弄された3年間、犠牲を払いながら私たちは何を学んだか、5月から季節性インフルエンザと同様の第5類になることを受け、改めて考えていかなくてはならないと思います。新年度も学校、家庭、地域のつながりを大切に、子どもたちを見守り育てていきましょう。